

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	にじいろキッズ			
○保護者評価実施期間	2026年1月5日 ～ 2026年1月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	2026年1月5日 ～ 2026年1月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月9日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	3歳～18歳までの通所施設なので、子どもたちと長く関われて、成長を見守る事ができる。	・場面に応じて視覚カードなども使いながらコミュニケーションをとっている。 ・プレイルームを広くし、児童がのびのび過ごせるように工夫している。 ・静養室を準備し落ち着ける環境をつくっている。	職員間で情報共有しながら、それぞれの児童に合わせた支援をしていく。
2	保育士、児童指導員ともに連携をとりながら事業所一体で支援を行っている。	子どもたちの気持ちに寄り添いながら支援を行っている。	地域の部会には参加しているので、引き続き他事業所や関係機関との情報交換や研修の機会を増やしていき、よりよい支援に繋げていく。
3	送迎時や定期的な面談等、保護者との関わりの機会もあるので、家庭での様子なども通じてより良い支援に繋げる事ができる。	可能な限り、直接保護者の方々とお話しさせていただきながら、相談や助言を行っている。	保護者会の開催など、保護者同士の情報交換の機会もつくれるよう計画していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の専門性の充実。	日々の支援に重きを置いている為、アルバイト・パート含め、研修の機会をつくれない場面がある。	内部研修や地域の研修会などの機会を設け、よりよい支援に繋げていく。
2	個別での支援。	集団で過ごす事がほとんどなので、それぞれの児童に合わせた支援の時間が短くなる。	グループの分類や職員配置を見直していく。
3	同年代の児童との関わり。	児童発達支援の利用児童が少ない為、異年齢との関わりが中心となる。	年齢の近い児童との関わりや児童発達支援ならではの遊び、活動の機会をつくっていく。